

基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

(1) 観点ごとの分析

観点 9 - 1 - : 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

(観点到る状況)

教育活動の実態を示す資料として、以下のものが保存蓄積されている。

教務係保存資料 本科・専攻科全学年対象

1. シラバス, 出席簿
2. 定期試験と模範解答 (資料 9 - 1 - - 1)

学科保存資料 1 本科・専攻科全学年対象

1. 定期試験答案用紙の現物又はその写し全数 (資料 9 - 1 - - 1)

資料 9 - 1 - - 1

5. 定期試験問題用紙等の提出

(1) 出題教員は、学年末試験など最終評価の基となる定期試験について、以下の2点を学科主任を経て教務主事に提出するものとする。

- ①問題用紙一部
- ②解答例 (配点付) 一部

(2) 学生の定期試験答案用紙は現物又はその写し全数を、各学科の責任で、保管するものとする。

定期試験問題用紙等の提出

(出典 平成 17 年度教務手帳 P.9)

学科保存資料 2 本科 4, 5 年, 専攻科 1, 2 年 (JABEE プログラム科目) 対象

(資料 9 - 1 - - 2)

1. シラバス
2. 定期試験問題と模範解答
3. 受講クラスの得点一覧表もしくは得点分布図
4. 合格とした答案のうち評価の低い答案 5 人分
5. 最高得点者の答案
6. 評価方法を説明する文章
7. 講義資料, 教科書 (これらは任意追加) など

注) 1, 2: 教育活動の実態資料として授業担当教員が作成し、学科で収集・蓄積・管理している。

3~7: 教育目標への到達状況を示す実態資料授業担当教員が作成し、学科で収集・蓄積管理している。

(分析結果とその根拠理由)

資料の収集・蓄積は、本科, 専攻科全開講科目で十分なされている。

教務係保存資料により、授業時間数管理と定期試験の実施内容を管理している。学科保存資料 1 は

学科主任教授や資料点検担当教員が適時内容を確認して適切に収集・保存している。学科保存資料 2 については科目毎に小箱（ボックス）に入れて図書館に保管しており、全教員が自由に閲覧可能な状態にある。（資料 9 - 1 - 2）これにより、教育の状況や評価の適切さについて教員が相互に確認する体制が整っている。

教務係保存資料及び学科保存資料 1 については、教育改善に結び付けるため、それらを閲覧できるような体制にすることが望まれる

なお、学科保存資料 2 は日本技術者教育認定機構（JABEE）による教育プログラム審査時の対象であり、5 年に一回の外部評価を受けることになっている。

資料 9 - 1 - 2

1. ボックスの内容

「必ず必要」

- ① シラバス（授業の 1 回目に学生へ配布したもの）
- ② 学年成績を算出した一覧表（例えば、Excel file のプリントアウト）
- ③ 学年成績を算出した方法を記載した説明書（A4、様式自由）
- ④ 全定期試験問題の模範解答
- ⑤ 60 点以上の学年(学期)末試験の答案（最下位から 5 名分）
- ⑥ 最高得点の学年(学期)末試験の答案（1 名分）

（注）上記の⑤は、学年末定期試験の合格水準が「教育プログラム側が設定する妥当な水準」を表す代表的な例とするものであって、個別の学生についての「学年末の合格水準」を示すものではありません。したがって、学年末試験が 60 点以下であっても、総合評価で 60 点以上（評価 3）もあり得ますし、その逆もあり得ます。

「求めに応じて提出」・・・各自保管

- ① 教科書
- ② 参考書
- ③ 配布資料
- ④ 講義ノートまたはそれに準じるもの
- ⑤ 定期試験の答案（全員分）
- ⑥ 小テスト、模範解答、代表的な答案
- ⑦ レポートの課題を記載したもの、代表的なレポート
- ⑧ その他提出物の課題を記載したもの、代表的な提出物
- ⑨ 出席、遅刻などの一覧表（教務手帳のコピー）

2. 実施および管理方法

- ① ボックスの整理は授業担当者が、年 1 回、年度末に行うことを原則とする。
- ② 整理されたボックスは、図書館、教官閲覧室の西壁に設置された棚に置く。
- ③ チェックシート（別添）をプログラム責任者に提出する。
- ④ 更新されたボックスは、学科主任と教務委員がその内容をチェックし、不備なものについては改善を求める。
- ⑤ 教官閲覧室入り口の鍵は、図書係で管理する。
- ⑥ 貸し出し簿に記入して、鍵を借り出すこととする。

なお、ボックス整理の締切日は、別途ご連絡します。

また資料②のために、成績算出フォーム（杉山先生作成）を使うことを推奨します。

学習・教育目標の達成を証明する資料等の保存と資料 BOX の作成と管理
（出典 JABEE 科目担当教員への BOX 作成依頼より抜粋）

観点 9 - 1 - : 学生の意見の聴取（例えば、授業評価、満足度評価、学習環境評価等が考えられる。）が行なわれており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

（観点に係る状況）

全開講科目を対象として、学生による授業評価アンケートを平成12年度以降全学的に実施している。調査は年に一回以上実施している。平成12年度から14年度調査については調査結果と授業評価に対する改善コメントなどを取りまとめた報告書を発行し、全教員に配付公開した。（資料 9 - 1 - - 1）

アンケート設問は平成12年度と13年度は五段階評価23問で同じ内容、平成14年度は五段階評価15問＋自由記述欄で実施した。設問には満足度評価、達成度評価、学習環境評価に関するものも含めていた。（資料 9 - 1 - - 2, 9 - 1 - - 3）平成15年度と同16年度分については、独自に開発したWebアンケートシステムを用いて調査を実施した。設問は、達成度評価に関するものを省いた五段階評価10問で調査を行った。（資料 9 - 1 - - 4）結果は学内LANを活用して全教員および学生に電子媒体開示し、教育改善推進委員会、自己点検・評価委員会などを通じ自己点検・評価に反映されている。（資料 9 - 1 - - 5, 6, 7）

一部の学年では、学年担任団による指導の一環として、学生による自己点検評価アンケートを年度で4回ある定期試験後などに実施している。（資料 9 - 1 - 8, 9）

（分析結果とその根拠理由）

授業評価アンケート調査結果は学生・教員に対して公開されており、その結果は自己点検・評価に反映されている。観点 9 - 1 - で後述するように、授業アンケート結果等を参考にして、各教員は年度当初に当該年度の授業改善・研究目標を立て、年度末にその結果報告をすることになっている。全教員の結果報告の中から投票により、数名の教員の結果報告に関する教員研修会も開催された。このようにして、学生の意見は教員各自の自己点検・評価に反映されるシステムができています。

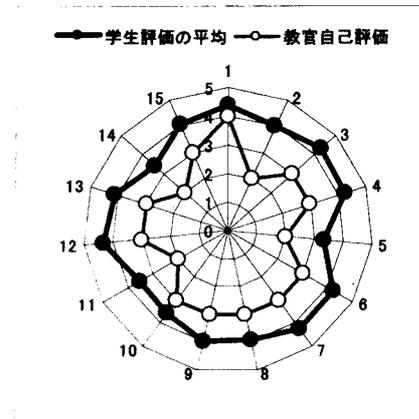
学生の自己点検評価などによる意見収集も一部の教員によって実施されている。学生の自己点検評価結果や意見を組織的に教育改善に活用反映させ適切に評価する体制整備が必要である。

資料 9 - 1 - 1

本科担当科目 : 電気回路 I (E 3), 電気回路 II (E 4),
電気・電子材料 (E 5)

【自己評価とコメント】

予想以上に学生の評価が良かったことと合わせて、
相対的に評価が低い項目は自己評価でも低い評価である
ことから、基本的にはよい結果が得られていると考
えている。評価が低い項目は、レポートや提出物、ま
たは試験用紙返却後の解答や勉学の指導についてであ
る。これらについては、今後指導する方向で考えたい。



調査結果と改善コメント例

(出典 平成 14 年度授業評価アンケート報告書)

資料 9 - 1 - - 2

(2) 学生による授業アンケート (体育・実験実習用)

授業評価アンケート (体育・実験実習用)

科目番号	
教官番号	

<p>このアンケート調査は、授業の改善を目的に行うもので、学生の名前が出て不利になることは絶対にありません。アンケートの質問に対して真面目に答えてください。記入については、担当の先生の指示に従ってください。</p> <p>(1) 科目番号と教官番号を記入してください。</p> <p>(2) 各設問に対する回答は、該当する番号 (5～1) を○で囲んでください。回答は、右の6段階で記入してください。</p>	<p>5 : そう思う。</p> <p>4 : どちらかというと、そう思う。</p> <p>3 : どちらともいえない。普通。</p> <p>2 : どちらかというと、そう思わない。</p> <p>1 : そう思わない。</p> <p>該当なし : この質問は該当しない。</p>
--	--

授業全体について

1. 授業内容をよく理解できた。	5	4	3	2	1	該当なし
2. 教科書、プリントは理解しやすく、十分授業の参考になった。	5	4	3	2	1	該当なし
3. クラスの雰囲気は、授業に集中していた。	5	4	3	2	1	該当なし

先生の授業について

4. 要点をうまく要約してくれた。	5	4	3	2	1	該当なし
5. 授業の進め方は、早すぎず、遅すぎず、適切であった。	5	4	3	2	1	該当なし
6. 先生の話し方は、明瞭で聞きやすかった。	5	4	3	2	1	該当なし
7. 黒板の使い方や書き方が、わかりやすかった。	5	4	3	2	1	該当なし
8. 先生がよく質問し、学生を積極的に授業に参加させた。	5	4	3	2	1	該当なし
9. 学生の質問に対して、納得できるように説明をした。	5	4	3	2	1	該当なし
10. 授業中の私語や居眠りを注意した。	5	4	3	2	1	該当なし

あなた自身の勉学について

11. きちんと出席し、欠課や遅刻をしなかった。	5	4	3	2	1	該当なし
12. 予習や復習は、よくできた。	5	4	3	2	1	該当なし
13. 宿題やレポートは、期限内にすべて出した。	5	4	3	2	1	該当なし
14. 授業では、注意深くよく聞き、ノートをきちんととった。	5	4	3	2	1	該当なし
15. わからない箇所は、自分で調べたり、先生や友達に質問したりした。	5	4	3	2	1	該当なし
16. 教科書以外に、参考書などで理解を深めた。	5	4	3	2	1	該当なし

試験と成績について

17. 試験問題は、講義との関連性が妥当であった。	5	4	3	2	1	該当なし
18. 試験に際しては、講義内容を十分理解していた。	5	4	3	2	1	該当なし
19. 成績の評価は、納得できるものであった。	5	4	3	2	1	該当なし

実験、実習、製図、体育の授業について

20. 事前に行う実験や実習の目的や方法の説明は適切であった。	5	4	3	2	1	該当なし
21. 実験や実習中、先生の指導は十分であった。	5	4	3	2	1	該当なし
22. 提出したレポートの内容についての指導は、丁寧であった。	5	4	3	2	1	該当なし
23. 実験などによって、授業の学習内容を深く理解できた。	5	4	3	2	1	該当なし

学生による授業評価アンケート質問・回答用紙 (平成 12, 13 年度用)

(出典 平成 12 年度授業評価アンケート報告書)

資料 9 - 1 - - 3

学生による授業アンケート (座学用)

科目番号	
教官番号	

このアンケート調査は、授業の改善に役立てることを目的として行うものです。皆さんの意見が、成績に影響することは絶対にありません。この科目の授業について、該当するものを1つ選んで番号に○を付けてください。

【 授業について 】

1. 先生の話し方は、明瞭で聞きやすかった。
5. そう思う 4. どちらかというと思う 3. どちらともいえない 2. どちらかというと思わない 1. そう思わない
2. 授業の進め方は、早すぎず遅すぎず、適切であった。
5. そう思う 4. どちらかというと思う 3. どちらともいえない 2. どちらかというと思わない 1. そう思わない
3. 黒板や OHP などの書き方や文字は、見易かった。
5. 見易い 4. どちらかというで見易い 3. 普通 2. どちらかというで見にくい 1. 見にくい
4. 学生の質問に対して、納得できるように丁寧に説明、指導してくれた。
5. そう思う 4. どちらかというと思う 3. どちらともいえない 2. どちらかというと思わない 1. そう思わない
5. 提出した課題について、納得できるように丁寧に説明、指導してくれた。
5. そう思う 4. どちらかというと思う 3. どちらともいえない 2. どちらかというと思わない 1. そう思わない
6. 授業中の私語や居眠りを注意した。
5. そう思う 4. どちらかというと思う 3. どちらともいえない 2. どちらかというと思わない 1. そう思わない
7. クラスの雰囲気は、授業に集中していた。
5. そう思う 4. どちらかというと思う 3. どちらともいえない 2. どちらかというと思わない 1. そう思わない

【 授業の内容について 】

8. 教科書、プリントなどは理解しやすく、十分授業の参考になった。
5. そう思う 4. どちらかというと思う 3. どちらともいえない 2. どちらかというと思わない 1. そう思わない
9. 授業内容は全体的にまとまりがあり、満足のいくものであった。
5. 満足 4. どちらかという満足 3. 普通 2. どちらかという不満 1. 不満
10. 授業内容はよく理解できた。
5. そう思う 4. どちらかというと思う 3. どちらともいえない 2. どちらかというと思わない 1. そう思わない
11. この科目に対する興味が増加した。
5. 増加した 4. どちらかという増加した 3. 普通 2. どちらかという減少した 1. 減少した

【 試験と成績について 】

12. 試験問題は、講義との関連性が妥当であった。
5. そう思う 4. どちらかというと思う 3. どちらともいえない 2. どちらかというと思わない 1. そう思わない
13. 成績の評価は、納得できるものであった。
5. そう思う 4. どちらかというと思う 3. どちらともいえない 2. どちらかというと思わない 1. そう思わない
14. 答案用紙の返却時、解答及び以降の勉学について、丁寧に説明、指導してくれた。
5. そう思う 4. どちらかというと思う 3. どちらともいえない 2. どちらかというと思わない 1. そう思わない

【 授業全体について 】

15. この授業全体について、あなた自身の勉学、先生の授業、実験内容などを総合的に評価してください。
5. 満足 4. やや満足 3. 普通 2. やや不満 1. 不満

この授業に関して意見、要望があれば以下に書いて下さい。

学生による授業評価アンケート質問・回答用紙 (平成 14 年度用)

(出典 平成 14 年度授業評価アンケート報告書)

資料 9 - 1 - - 4

授業評価アンケートシステム

評価科目 国語Ⅲ 谷内統一

各質問に答えて授業評価をしてください。評点は次のようにしてください。

1:まったくあてはまらない。2:どちらかといえばあてはまらない。
3:どちらともいえない。4:どちらかといえばあてはまる。5:そのとおりのだった。

該当しない質問や回答したくない場合は、クリックしないか無回答を選択して下さい。

質問 1: 先生の話し方は、明瞭で聞きやすかった。

無回答 1 2 3 4 5

質問 2: 授業・実験実習の進め方は、早すぎず遅すぎず、適切であった。

無回答 1 2 3 4 5

質問 3: (座学・実験実習) 白板やプロジェクターなどの書き方や文字は、見やすかった。
(体育) 実技の指導、器具の扱いについての説明は分かりやすかった。

無回答 1 2 3 4 5

質問 4: 学生の質問、提出した課題、答案の回答に対して、納得できるように丁寧に説明、指導してくれた。

無回答 1 2 3 4 5

質問 5: 先生はクラスの雰囲気、授業・実験実習に集中させていた。

無回答 1 2 3 4 5

質問 6: (座学・実験実習) 教科書・問題集、実験指導書、プリントなどは理解しやすく、十分参考になった。
(体育) 実技種目のルールや目的など納得できるように説明してくれた。

無回答 1 2 3 4 5

質問 7: 授業・実験実習内容のレベルは、あなたにとって適切であった。

無回答 1 2 3 4 5

質問 8: (座学・体育) 試験内容は、講義との関連性が適切であった。
(実験実習) 実験実習の内容は、関連する科目との関連性が妥当であった。

無回答 1 2 3 4 5

質問 9: 成績の評価は、妥当なものであった。

無回答 1 2 3 4 5

質問 10: この授業・実験実習は総合的にみて満足のいくものであった。

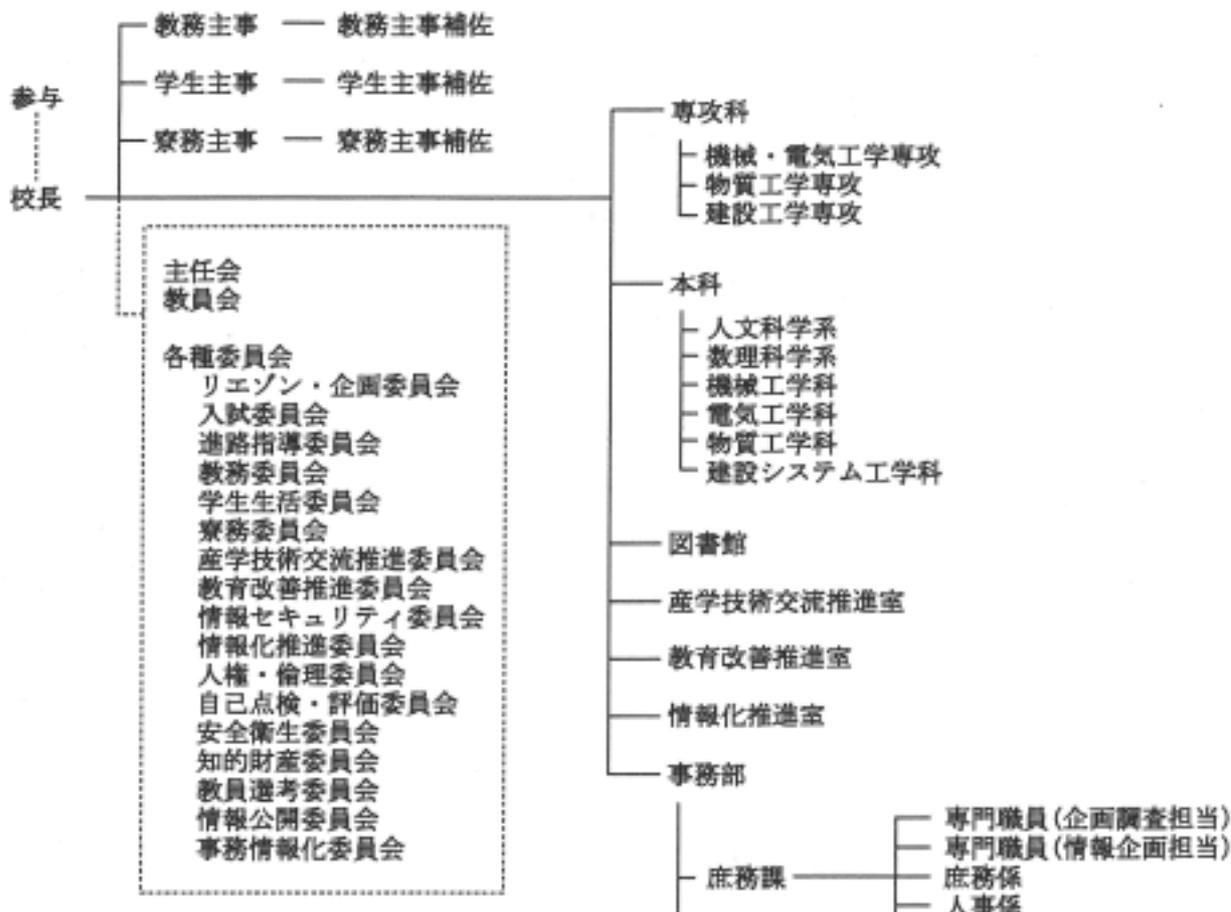
無回答 1 2 3 4 5

回答登録

学生による授業評価アンケート質問画面 (平成 15, 16 年度用)

(出典 学生による授業評価 Web アンケート 調査ページ)

資料 9 - 1 - - 5



高知工業高等専門学校組織図

(出典 平成 17 年度高知工業高等専門学校 学校概要より抜粋)

資料 9 - 1 - 6

第 1 条 この規程は、高知工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育水準の向上を図り、本校の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら行う点検及び評価（以下「自己点検・評価」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

（自己点検・評価委員会）

第 2 条 本校に、次に掲げる事項を審議するため、高知工業高等専門学校自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- (1) 自己点検・評価の基本方針に関すること。
- (2) 自己点検・評価項目の設定に関すること。
- (3) 自己点検・評価の実施に関すること。
- (4) 自己点検・評価報告書の作成及び公表に関すること。
- (5) 本校の教職員以外の者による自己点検・評価の検証に関すること。
- (6) その他自己点検・評価に関すること。

自己点検・評価委員会規則

(出典 (独) 国立高等専門学校機構 高知工業高等専門学校規則集 より抜粋)

資料 9 - 1 - 7

第 1 条 高知工業高等専門学校教育改善推進室規則（平成 14 年 3 月 20 日制定）第 4 条の規定に基づき、高知工業高等専門学校教育改善推進委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育方法の改善に関する事。
- (2) 教育技術の向上に関する事。
- (3) 教育貢献評価に関する事。
- (4) その他教育改善の推進に関する事。

教育改善推進委員会規則

（出典 （独）国立高等専門学校機構 高知工業高等専門学校規則集 より抜粋）

資料 9 - 1 - 8

学生指導例

学生による自己点検アンケート

後期中間試験後の自己点検アンケート 平成 13 年 1 年生

科 番 氏名

5（良い）～1（悪い）に○印を付ける

- | | | | | | |
|---------------------------------------|---|---|---|---|---|
| 1 授業中の取り組みはどうでしたか？
（遅刻・忘れ物・私語・居眠り） | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 自宅・寮での自主学習の取り組みは？ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 試験勉強は計画通りに実施出来ましたか？ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 試験勉強実行表には毎日記入しましたか？ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 昨年度の試験の反省が活かされましたか？ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 友人関係はうまくいってますか？ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 クラブ活動に積極的に参加できましたか？ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 服装違反（頭髪）はありませんでしたか？ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9 日直の仕事は責任もってできましたか？ | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10 試験終了した今の感想・反省（具体的に記載） | | | | | |

学生による自己点検アンケート（平成 13 年度 1 年生）

（出典 参与の会報告書（第 5 回・第 6 回）平成 14 年度分より一部抜粋）

資料 9 - 1 - 9

学生による自己点検評価（5段階）アンケート

H13年度物質工学科1年生

1年前期中間試験直後

評点	授業態度	自主学習	勉強実行	勉強計画	反省活用	友人関係	クラブ活動	服装違反	日直
5	6	3	0	8		12	17	25	21
4	16	7	12	13		15	11	8	13
3	15	22	10	6		9	8	6	6
2	3	5	13	6		4	1	1	0
1	0	3	5	7		0	3	0	0
平均	4	3	3	3		4	4	4	4

1年学年末試験直後

評点	授業態度	自主学習	勉強実行	勉強計画	反省活用	友人関係	クラブ活動	服装違反	日直
5	8	5	7	10	4	11	13	24	19
4	14	11	4	5	7	11	12	9	13
3	13	18	16	3	14	17	8	6	8
2	4	4	8	8	10	1	4	1	0
1	1	2	5	14	5	0	3	0	0
平均	4	3	3	3	3	4	4	4	4

学生による自己点検アンケート集計結果

(出典 参与の会報告書(第5回・第6回)平成14年度分より一部抜粋)

観点 9 - 1 - : 学外関係者(例えば,卒業(修了)生,就職先等の関係者等が考えられる。)の意見が,教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点に係る状況)

学外関係者の意見を聞く機会として,次のものがある。

1. 保護者会(年二回開催)
2. 参与の会(年一回開催)(資料 9 - 1 - 1)
3. 就職先企業アンケート調査(3年毎に実施)(資料 9 - 1 - 3)
4. 卒業生アンケート調査(3年毎に実施)(資料 9 - 1 - 4)
5. 求人募集のため来校した就職先の担当者との会談(適宜)
6. 本科四年次に実施している校外実習(企業実習)と専攻科生で実施している長期企業実習(インターンシップ)の実施評価を企業担当者が記載する評価票
7. 本校同窓会から寄せられる卒業生の意見・提案(年一度程度)
8. 社団法人高知高専テクノフェローを通じた企業・産業界,卒業生,地域自治体からの意見・提案(適宜)

以上のように学外関係者の意見を聞く機会,仕組みは多くある。これらより毎年多くの意見・提案がなされている。参与の会で提案されたインターン制度(インターンシップ)の実施に関する提案やIT・語学の強化(資料 9 - 1 - 1),寄せられた意見・提案に対して,該当する各種委員会,学科教室会議や全体教員会等で報告・検討されている。検討結果は各種委員会や担当教員により個別に学校運営,教育改善に活かされており自己点検・評価に反映されている。(資料 9 - 1 - 2)

平成13年度より3年毎に、教育成果の自己点検として準学士課程（本科）卒業生・専攻科修了生の就職先企業、卒業生を対象としたアンケートを実施している。これより高知高専の教育の補充すべき点が明らかとなった。（資料9 - 1 - 3, 4）これに基づき平成14年度には、専攻科に「技術者倫理」の新設、「英語演習」を二科目に増設し、平成15年度からはこれらの科目の単位取得を専攻科修了要件とした。（資料9 - 1 - 5）

（分析結果とその根拠理由）

学外関係者からの意見を、自己点検・評価に適切な形で反映できている。

資料9 - 1 - 1

A 参与

長い目で見れば、そういった事が色々な意味で、今、悪循環に陥っている一因でもあり、是非インターン制度をやって行きたいと思っています。高知高専で、例えばソフトで非常に優秀な人間がいるというような事であれば、ぜひ推薦して頂き、2週間と言わず来て頂いて、活躍して頂きたいと思います。

B 参与

7年一貫教育という事を考えると、大学の工学部と対比して、高専を7年間かけて出てきた人材はここがこう違うんだという事が明確にあると学生達の動機付けになると思います。

そのような観点から、JABEEの認定を受けて、国際的に活躍する技術者の養成という方向に向けて、プログラムを立てているとすれば、高専では英語とITをしっかりとやる事を考えなければならないと思います。今後、進学者が増えるという事で、益々そういう所が大事になると考えます。

技術者である前に生活者である訳ですから、技術だけが優先するのではなく、文化芸術などを取り入れ、全人的な感覚が持てる教育をして頂きたいと思います。

参与からの意見聴取

（出典 参与の会報告書（第5回・第6回）平成14年度部分より抜粋）

資料9 - 1 - 2

学生のインターンシップ参加状況

実績 平成15年度実績 本科:83企業128名, 専攻科:2企業2名

平成16年度実績 本科:86企業127名 専攻科:2企業2名

評価 専攻科生の, 参加件数が少ない。

効果的なインターンシップの実施の検討状況

実績 産学協同教育・研究に関する協定を高知県工業会と締結し,

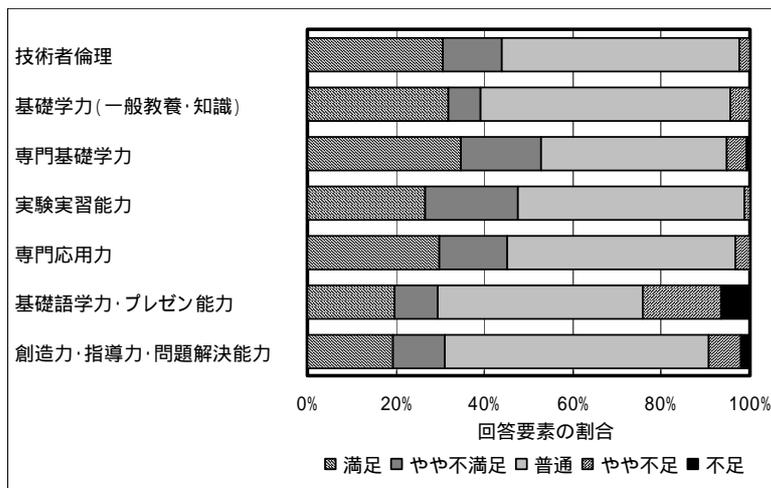
効果的なインターンシップの実施について検討中

評価 これから, 対応していくという段階にある。

インターンシップへの参加実績等

（出典 「平成16事業年度独立行政法人国立高等専門学校機構に係る業務の実績に関する評価」より抜粋）

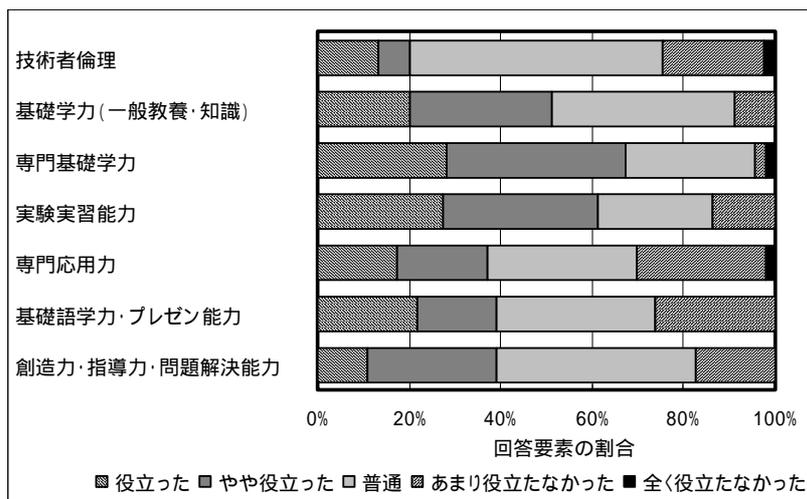
資料 9 - 1 - 3



就職先企業による卒業生評価アンケート集計結果

(出典 庶務課「高知工業高等専門学校での教育等に関するアンケート」)

資料 9 - 1 - 4



本科卒業生による自己評価アンケート集計結果

(出典 庶務課「高知工業高等専門学校での教育等に関するアンケート」)

資料 9 - 1 - 5

区分	必修 選択	授 業 科 目	単位数	学 年 別 配 当				担当教員名
				1 年		2 年		
				前期	後期	前期	後期	
一般 科目	必修	英 語 演 習 I	2	2				赤山幸太郎 ジョーシロードローパー 講師団1*)
		英 語 演 習 II	2			2		
		技 術 者 倫 理	2	2				
	選択	地 域 産 業 経 済 論	2				2	池 谷・大 野
一般科目開設単位 小計			8	2	2	1	3	

専攻科必修単位 - 英語，技術者倫理 -

(出典 「平成 17 年度専攻科学生の手引き」シラバス部分より抜粋)

観点 9 - 1 - : 各種の評価(例えば、自己点検・評価、教員の教育活動に関する評価、学生による達成度評価等が考えられる。)の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるようなシステムが整備され、教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

(観点に係る状況)

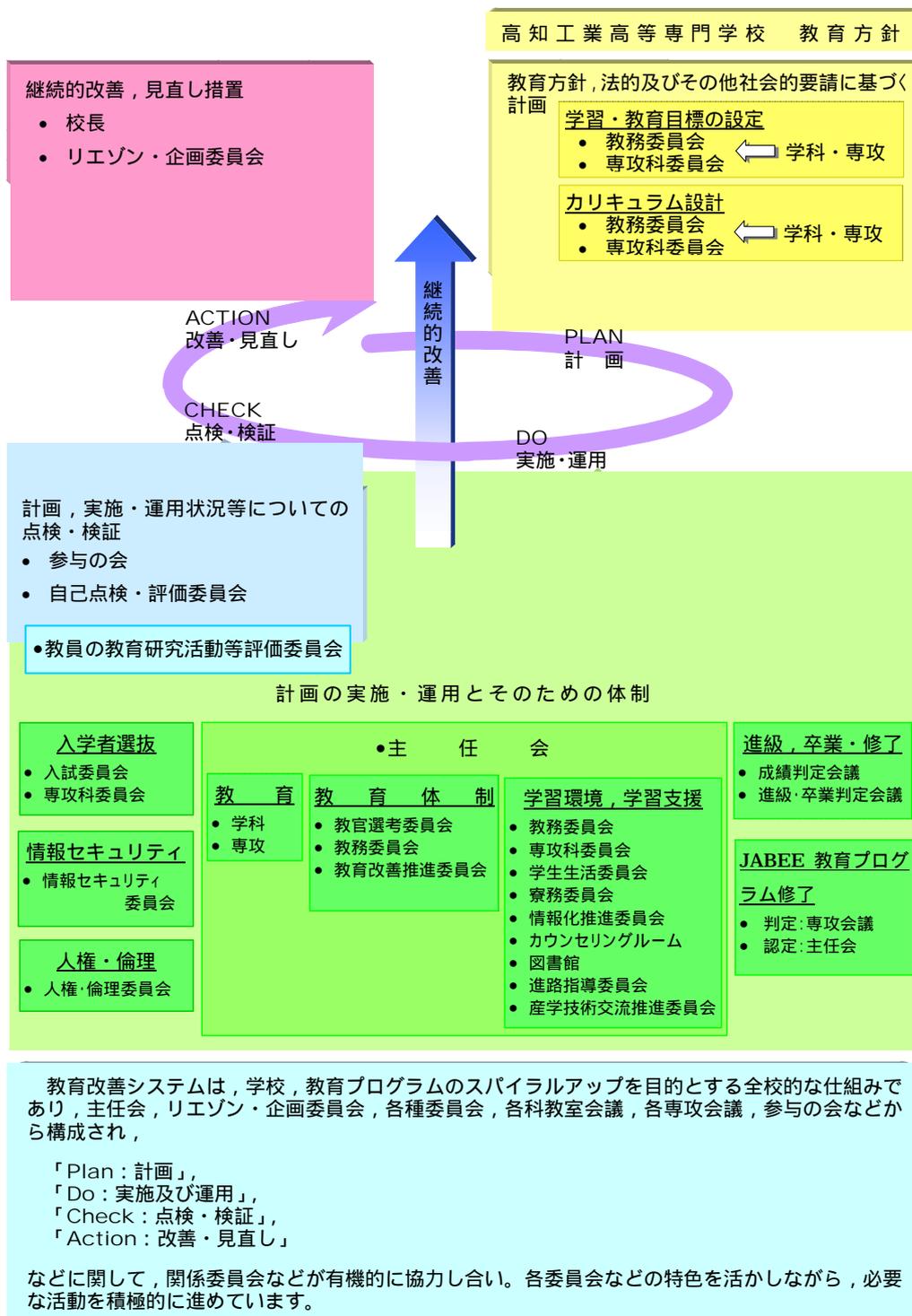
カリキュラム改訂や教育課程の見直しをするために、多くの委員会がある。(資料 9 - 1 - 1) 必要に応じて、個々の問題に対応できる専門部会やワーキンググループを立ち上げることになっている。

平成14年度には、教育改善を目的とした企画立案を行なうために「教育改善推進委員会」、平成15年度には、教員の教育・研究活動の活性化および質の向上を目的とした「教員の教育研究活動等評価委員会」が設置された。日常的な教育業務の運営統括・議論の場として教務委員会があり、最終的な議決機関として主任会がある。(資料 9 - 1 - 2, 3, 4, 5)

平成13年度に「カリキュラム検討委員会(WG)」が教務委員会の中に発足、3年毎に、教育成果の自己点検として実施している準学士課程卒業生・専攻科修了生の就職先企業、卒業生を対象としたアンケートを開始した。ここで検討された新カリキュラムが平成14年度以降実施され、平成14年度には、専攻科に「技術者倫理」の新設、「英語演習」の増設、平成15年度からはこれらの科目の単位取得を専攻科修了要件とした。(資料 9 - 1 - 6)

資料 9 - 1 - 1 「高知高等専門学校教育改善システム」

高知工業高等専門学校教育改善システム



(出典 高知高専ホームページ)

資料 9 - 1 - 2

第 1 条 高知工業高等専門学校内部組織規則第 8 条第 2 項の規定に基づき，高知工業高等専門学校主任会（以下「主任会」という。）について，必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第 2 条 本校における専攻科及び本科等の管理，運営に関する重要事項について，校長が意見を聞くことを目的とする。

（組織）

主任会規則

（出典 （独）国立高等専門学校機構 高知工業高等専門学校規則集 より抜粋）

資料 9 - 1 - 3

第 1 条 高知工業高等専門学校に，高知工業高等専門学校教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（目的）

第 2 条 委員会は，本校における教育を円滑に遂行するために必要な事項を審議し，各学科等間の連絡調整を図るとともに問題の処理にあたる。

（審議事項）

第 3 条 委員会は，次の各号に掲げる事項について審議するものとする。

- (1) 教育課程の編成及び実施に関すること。
- (2) 学業の履修及び成績に関すること。
- (3) 指導要録に関すること。
- (4) 入学，転科，休学，退学，転学，留学及び卒業に関すること。
- (5) 校外実習及び見学旅行に関すること。
- (6) 学校行事を総括調整すること。
- (7) その他教務に関し，委員長が必要と認める事項。

教務委員会規則

（出典 （独）国立高等専門学校機構 高知工業高等専門学校規則集 より抜粋）

資料 9 - 1 - 4

第 1 条 この規程は、高知工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育水準の向上を図り、本校の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら行う点検及び評価（以下「自己点検・評価」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

（自己点検・評価委員会）

第 2 条 本校に、次に掲げる事項を審議するため、高知工業高等専門学校自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- (1) 自己点検・評価の基本方針に関すること。
- (2) 自己点検・評価項目の設定に関すること。
- (3) 自己点検・評価の実施に関すること。
- (4) 自己点検・評価報告書の作成及び公表に関すること。
- (5) 本校の教職員以外の者による自己点検・評価の検証に関すること。
- (6) その他自己点検・評価に関すること。

自己点検・評価委員会規則

（出典 （独）国立高等専門学校機構 高知工業高等専門学校規則集 より抜粋）

資料 9 - 1 - 5

第 1 条 高知工業高等専門学校教育改善推進室規則（平成 14 年 3 月 20 日制定）第 4 条の規定に基づき、高知工業高等専門学校教育改善推進委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育方法の改善に関すること。
- (2) 教育技術の向上に関すること。
- (3) 教育貢献評価に関すること。
- (4) その他教育改善の推進に関すること。

教育改善推進委員会規則

（出典 （独）国立高等専門学校機構 高知工業高等専門学校規則集 より抜粋）

資料 9 - 1 - 6

(2) 教育課程の改訂と整備

- 平成14年度小・中・高校で新学習指導要領に基づく教育
 - 週5日制に伴う授業時数の削減や「ゆとり教育」の実践
 - 学習内容の約3割縮減
- 開放型7カ年一貫教育システムへの移行・確立
 - 早期技術者教育の利点
 - 実践教育の重視
 - 7年間一貫した教育プログラム（本科+専攻科）
 - 開かれた高等教育機関
- JABEEの認定
 - 平成13年度建設システム工学科がJABEEの試行審査
 - 機械工学科, 電気工学科, 物質工学科→認定申請
 - 教員のFD活動や教育実績評価システムの整備・改善

カリキュラムの主な変更点

- 数学：応用数学を含めた内容の見直し。5年生に応用数学C新設
- 理科：2年生に生物1単位新設。3年生の物理1単位を2単位に増
- 国語：学年配当の変更。1単位の増(表現力の強化)
- 英語：1単位増(コミュニケーション力の強化)
- 人文・社会：学年配当の変更(一部4・5年生に変更)
- 専門科目
 - 専門基礎科目(情報関連を除く)の学科間統一
 - IT(情報)関連科目の4, 5年生での実施
 - 卒業研究の単位数縮小(4単位減)

カリキュラムの変更

(出典 参与の会報告書(第5回・第6回)より抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

教育の質の向上・改善に結び付けるための調査実施と教育改善システムがあり継続的な方策が講じられている。

それに基づく教育改善のため、点検評価を実施するための委員会があり、継続的に活動している。全学的に組織だったカリキュラム改善プロセスがあり、教育の質の向上を図っている。

観点 9 - 1 - 1 : 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

(観点に係る状況)

教員による自己採点、学生による授業評価アンケート結果に基づき各教員が授業改善に取り組んでいる。平成15年度には学生による授業評価点の高かった教員の授業公開と学内教育討論会を実施した。(資料 9 - 1 - 2) 平成16年度には、個々の教員が教育研究に関して一年間取り組むテーマを教育研究テーマとして提出、年度末に実践・調査結果を報告書として提出した。(資料 9 - 1 - 1) 報告書は学内LANを通じて全教員が閲覧している。平成17年度には、平成16年度の教育研究テーマの実践結果を元にした学内報告研修会を実施した。(資料 9 - 1 - 3)

(分析結果とその根拠理由)

個々の教員は教育改善努力をしており、改善活動状況は全教員に公開され、学校として把握する仕組みが完備している。公開授業、教育研究テーマ設定・実践報告書提出、および報告研修会により全教員が教育改善活動に参加・従事していることが判断できる。また学校としても、これを把握している。授業評価アンケートなどの結果公開や教育研究テーマ報告書などを通じて教員は、相互に教育改善活動状況や成果を共有している。

資料 9 - 1 - 1

教育改善に関する研究テーマとその概要 : 目次

一般科目	テーマ名	氏名	ページ
人文	○ 学力の充実	北川 真人	001
	○ 日本語表現学習における教育内容・教育方法の改善	村瀬 良子	002
	○ 数値化されない教育の本質について	谷 貞志	003
	○ 目標設定と作業学習による教育改善の試み	池谷 江理子	004
	○ 社会系科目における視覚教材の活用について	大野 三徳	005
	○ 寮生の寮生による寮生のための学寮運営体制	澤本 章一	006
	○ 「学習実行表」・「試験後のアンケート調査」による教育改善の試み	福島 英倫	007
	○ 学習習慣を育成するための小テストと学習意欲を高めるための教材のあり方	西村 淑子	008
	○ 定期試験毎の学習実行表及び学生の自個点検アンケートを基本に据えた、この学生の状況に寄り添い、学習意欲を醸成させるための学級経営	宮川 敏春	009
	○ 一般教育(英語)における継続的教育について	大嶋 秀樹	010
	○ 小テストおよび補習(再テスト)による低学年生の英語基礎力強化の試み	赤山 幸太郎	011

平成 16 年度教育研究テーマ例

(出典 平成 16 年度教育改善に対する研究テーマとその概要集 目次より抜粋)

資料 9 - 1 - 2

教 官 各 位

校 長 中 井 貞 雄

公開授業と研修会の実施について

本校FD活動の一環として、下記のとおり公開授業と研修会を実施しますので、ご参加くださるようお願いいたします。

記

1. 実施方法

各学科選出の6名（6コマ）の授業から任意に、本校全教官が見学し、公開授業終了後に研修会を開催します。

2. 授業公開教官

リー・ニコルズ	一般科・人文系
後藤 章	一般科・数理系
竹島 敬志	機械工学科
益弘 昌典	電気工学科
長山 和史	物質工学科
多賀谷 宏三	建設システム工学科

3. 公開授業時間割

日(曜) 時限	11/10(月)	11/11(火)	11/12(水)	11/13(木)	11/14(金)
1					竹島/M5 環境工学
2					
3	リー/M2 英語表現Ⅱ				
4					後藤/C2 微積分Ⅰ
5				長山/C4 分離工学	
6	多賀谷/Z1 建設システム工学概論				
7		益弘/E3 デジタル回路			

4. 見学方法

各教官は、「4. 公開授業時間割」から見学する授業を任意に選び、1回（1時限）以上見学してください。

また、授業の見学終了後に報告書（所定様式）を作成し、11月17日（月）までに教務係へE-mail又は書面にて提出をお願いします。

5. 研修会の実施

全教官を対象とした研修会とします。

なお、研修会は教育改善推進室において取りまとめた公開授業の報告書を基に実施します。

開催日時 11月20日（木）17:20～18:10

開催場所 視聴覚室

公開授業と研修会の開催案内

（出典 平成15年度教育改善推進委員会配布資料）

資料9 - 1 - 3

教 員 各 位

学 校 長

藤 田 正 憲

教 員 研 修 会 の 開 催 に つ い て

本校FD活動の一環として、下記のとおり教員研修会を開催しますので、ご出席くださるようお願いいたします。

記

日 時 平成17年6月8日(水) 13:30～15:30

場 所 視聴覚教室

プログラム

- | | | |
|---|-------------------|-------------|
| 1. 校長挨拶 | | 13:30～13:35 |
| 2. 教育研究発表(発表10分, 質疑応答5分) | | |
| (1) 「個に応じた指導に生かす形成的評価と授業改善への有効性について」 | 一般科数理科学系 秦泉寺 俊 弘 | 13:35～13:50 |
| (2) 「e-Learning ソフト(WebClass)を用いた教育改善について」 | 電気工学科 今 井 一 雅 | 13:50～14:05 |
| (3) 「学生の講義への関心度向上と成績不良学生のフォローアップ」 | 物質工学科 土 居 俊 房 | 14:05～14:20 |
| ○休憩 | | 14:20～14:30 |
| (4) 「具体的学習項目, Minute Paper (毎時間授業評価), 模擬試験による教育改善の試み」 | 物質工学科 島 内 功 光 | 14:30～14:45 |
| (5) 「学生の積極的な授業参加」 | 建設システム工学科 横 井 克 則 | 14:45～15:00 |
| 3. 総合討論 | | |
| テーマ 「どのような授業が最も効果的か」 | | 15:00～15:30 |

教員研修会開催案内

(出典 平成17年教育改善推進委員会配布資料)

観点 9 - 1 - 1 : 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

(観点に係る状況)

本科五年生の卒業研究指導，専攻科の特別研究の一環として，学生が学会等で成果発表を行なっている。専攻科学生には年度に一度以上の学会発表を義務として課している。科目によっては，教員が行なっている研究活動の成果が講義内容に反映されている。

十分に寄与している。毎年多くの学生が学会発表を行っており，これは教員の論文投稿・学会発表件数と相関があることから教育の質向上に寄与していると判断できる。(資料 9 - 1 - 1)

また各教員の専門研究分野と担当科目は対応が取れており，研究内容が講義に十分反映されており教育の質が向上していると判断することができる。(資料 9 - 1 - 2)

(分析結果とその根拠理由)

各教員が研究活動の成果を毎年，学会発表を行っていることと，各教員の専門研究分野と担当科目は対応が取れていることを合わせて考えると，研究内容とその成果が講義，実験実習内容，卒業研究及び特別研究に十分反映され，教育の質の向上に寄与していると判断できる。

資料 9 - 1 - 1

年度	論文投稿・学会発表件数	
	教員 (教員数)	学生 (専攻科学生内数)
12	68(67)	44(5)
13	127(68)	76(28)
14	102(68)	45(28)
15	92(68)	49(21)
16	128(68)	50(28)

過去五年間の教員と学生の論文投稿・学会発表件数

(出典 参与の会報告書 (平成 12 年度 ~ 16 年度))

資料 9 - 1 - 2

教員	専門研究分野	担当授業科目
池谷 江理子 (一般科目)	経済地理学，社会経済地理学，地球環境問題	地理，人間と科学技術
藤原 憲一郎 (専門学科)	電力変換器の高力率・高効率化，無効電力補償	電気基礎 II，電気回路 I，電気機器 II，パワーエレクトロニクス
横井 克則 (専門学科)	コンクリート工学，コンクリート構造学	建設材料学 I，建設材料学 II，コンクリート構造学

教員の専門研究分野と担当科目対応表

(出典 研究者総覧 (<http://www.kochi-ct.ac.jp/ksouran/souran/index.htm>))

観点 9 - 2 - : ファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で実施されているか。

(観点に係る状況)

外部講師を招いた教育講演会を全教員対象に平成14,15年度に各二回開催。学内で選抜した教員の授業の公開とそれに基づいた教育討論会を平成15,16年度に実施した。教育講演会・教育討論会には、出張など校務外出者を除いたほぼ全員が参加しており、積極的な取り組みが出来ている。教育講演会、教育討論会の概要は報告書を作成して全教員に配付した。(資料 9 - 2 - 1 ~ 3)

平成16,17年度には教員が一年間取り組む「教育研究テーマ」を各教員が設定し、報告書を提出したものを取りまとめて電子媒体で配付開示した。またそれに基づく実践報告研修会を実施した。(資料 9 - 2 - 4)

これらのFD活動は、教育改善委員会が主体となって企画立案、教務委員会で審議検討承認された後に、協同で開催運営している。学外で開催される教育講演会・研修会への参加も積極的に行っている。(資料 9 - 2 - 5)

(分析結果とその根拠理由)

教育講演会・教育討論会には、ほぼ全員が参加し、講演会・討論会の報告書を全教員に配付することで講演内容、討議結果の周知を行い改善意識が持続できている。学外の教育講演会へも参加している。

以上のことより、FD活動が組織として適切な方法で実施されていると言える。

資料 9 - 2 - - 1

- 1 「学生による授業評価について」
東海大学教授 東海大学教育研究所長 安岡高志先生
平成14年7月22日 13:00 ~ 15:00
- 2 「企業の最新ニーズからみて、母校、高知高専に期待すること」
旭化学アミダス(株) 教育事業部長 南 俊夫氏
平成15年3月3日 13:30 ~ 15:30
- 3 「高等教育改革の現状と課題」
国立学校財務センター教授 研究部長 天野郁夫先生
平成15年6月6日 13:30 ~ 15:00
- 4 「茨城高専の教育改善について」
茨城高専 副校長 巖名不二夫先生
平成15年12月12日 13:30 ~ 15:00

教育講演会演目

(出典 「教育講演会報告書 平成14・15年度」より抜粋)

資料 9 - 2 - 2

講演会	1	2	3	4
有効出席率(%)	95	97	95	98

教育改善講演会への出席率(公務・校務による欠席者を除く)

(出典 教育改善委員会)

資料 9 - 2 - 3

教 官 各 位

校 長 中 井 貞 雄

公開授業と研修会の実施について

本校FD活動の一環として、下記のとおり公開授業と研修会を実施しますので、ご参加くださるようお願いいたします。

記

1. 実施方法

各学科選出の6名(6コマ)の授業から任意に、本校全教官が見学し、公開授業終了後に研修会を開催します。

2. 授業公開教官

リー・ニコルズ	一般科・人文系
後藤 章	一般科・数理系
竹島 敬志	機械工学科
益弘 昌典	電気工学科
長山 和史	物質工学科
多賀谷 宏三	建設システム工学科

3. 公開授業時間割

日(曜) 時限	11/10(月)	11/11(火)	11/12(水)	11/13(木)	11/14(金)
1					竹島/M5 環境工学
2					
3	リー/M2 英語表現Ⅱ				
4					後藤/C2 微積分Ⅰ
5				長山/C4 分離工学	
6	多賀谷/Z1 建設システム工学概論				
7		益弘/E3 デジタル回路			

4. 見学方法

各教官は、「4. 公開授業時間割」から見学する授業を任意に選び、1回(1時限)以上見学してください。

また、授業の見学終了後に報告書(所定様式)を作成し、11月17日(月)までに教務係へE-mail又は書面にて提出をお願いします。

5. 研修会の実施

全教官を対象とした研修会とします。

なお、研修会は教育改善推進室において取りまとめた公開授業の報告書を基に実施します。

開催日時 11月20日(木) 17:20~18:10

開催場所 視聴覚室

公開授業と研修会の開催案内

(出典 平成15年度教育改善推進委員会配布資料)

資料 9 - 2 - 4

教 員 各 位

学 校 長

藤 田 正 憲

教 員 研 修 会 の 開 催 に つ い て

本校FD活動の一環として、下記のとおり教員研修会を開催しますので、ご出席くださるようお願いいたします。

記

日 時 平成17年6月8日(水) 13:30~15:30

場 所 視聴覚教室

プログラム

- | | | |
|---|-------------------|-------------|
| 1. 校長挨拶 | | 13:30~13:35 |
| 2. 教育研究発表(発表10分, 質疑応答5分) | | |
| (1) 「個に応じた指導に生かす形成的評価と授業改善への有効性について」 | 一般科数理科学系 秦泉寺 俊 弘 | 13:35~13:50 |
| (2) 「e-Learning ソフト(WebClass)を用いた教育改善について」 | 電気工学科 今 井 一 雅 | 13:50~14:05 |
| (3) 「学生の講義への関心度向上と成績不良学生のフォローアップ」 | 物質工学科 土 居 俊 房 | 14:05~14:20 |
| ○休憩 | | 14:20~14:30 |
| (4) 「具体的学習項目, Minute Paper (毎時間授業評価), 模擬試験による教育改善の試み」 | 物質工学科 島 内 功 光 | 14:30~14:45 |
| (5) 「学生の積極的な授業参加」 | 建設システム工学科 横 井 克 則 | 14:45~15:00 |
| 3. 総合討論 | | |
| テーマ 「どのような授業が最も効果的か」 | | 15:00~15:30 |

教員研修会開催案内

(出典 平成17年教育改善推進委員会配布資料)

資料 9 - 2 - 5

教員の能力向上を目的とした研修会の開催状況

実績 情報処理教育研究発表会の開催及び出席(当番校)

評価 積極的に取り組んでいると思われる。

各種研修会への教員の参加状況

実績 高等専門学校新任教員研修会へ参加 2名

評価 機会を見つけて、参加していると思われる。

平成 16 年度に校外で行われた各種研修会等への参加報告

(出典 平成 16 事業年度独立行政法人国立高等専門学校機構に係る業務の実績に関する評価より抜粋)

観点 9 - 2 - : ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

(観点に係る状況)

教員による自己採点結果と学生による授業評価アンケート結果の年次推移を集約・分析し、教員会で報告した。教育の質向上については、自己採点結果の教育の質に関連する項目の全学的な平均値、授業評価アンケート結果の全教員・全科目の平均値、ともに年次経過にともない上昇していることから明らかである。(資料 9 - 2 - 1, 2)

毎年提出することになっている教員の教育研究業績に関する自己申告書を分析した結果、教員が自ら設定する教育研究テーマには、授業内容の改善について取り組むものが多くあり、実際に実施され効果をあげている。(資料 9 - 2 - 3, 4)

(分析結果とその根拠理由)

教育の質に関連する項目の全学的な平均値、授業評価アンケート結果の全教員・全科目の平均値、ともに年次経過にともない上昇していること、教員の多くは、教育研究テーマとして、授業内容の改善について取り組んでおり、効果をあげていることより、FD活動が教育の質の向上、授業内容の改善に十分結び付いていると言える。

資料 9 - 2 - 1

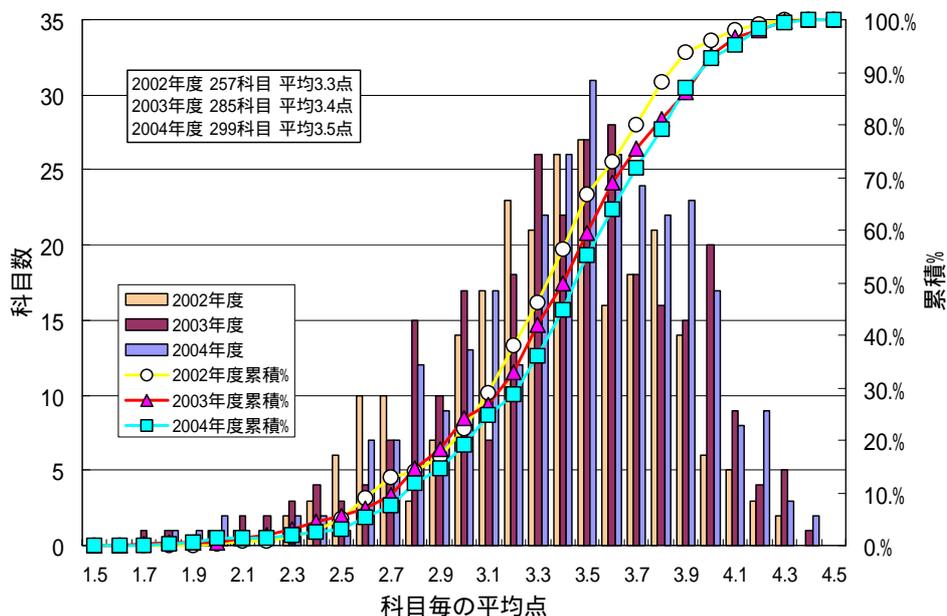


図1 学生による授業評価の比較(2002、2003、2004年度)

学生による授業評価結果の年次比較

(出典 平成 16 年度 3 月 教員会配布資料)

資料 9 - 2 - 2

年度	自己採点結果のうち教育に関する項目の平均値	授業評価アンケート調査全科目平均点
14	実施開始年度	3.3 (5点満点)
15	54.0	3.4 (5点満点)
16	55.1	3.5 (5点満点)

以降の年度と設問数，内容が異なるため数値を計上していない

自己採点結果と学生による授業評価アンケート調査結果の年次推移

(出典 庶務係資料および教育改善委員会集計資料より抜粋)

資料 9 - 2 - 3

テーマ分類	授業改善	生活指導 (学習習慣化含む)	クラス運営	課外活動指導	その他
割合(%)	63.6	12.1	12.1	3.0	9.1

平成 16 年度教育研究テーマ分類と各割合

(出典 平成 16 年度教育改善に関する研究テーマとその概要集 より抽出集計)

資料 9 - 2 - 4

1. 研究テーマ「学生の積極的な授業参加」

自分の担当科目は暗記する項目が多いため、一方通行の授業になりがちである。また、最近の学生は、人前で話をするのが苦手な学生が多いと思われる。そこで、毎回の授業で質問リストを準備するなどしてできるだけスムーズに学生に質問を与え、その応答を学生が自分で考え、積極的に対応できるようになるためにはどのようなことに配慮すればよいのかについて検討する。

2. 研究報告

毎回の授業の予習時に、1時間の授業の流れを頭の中で思い描き、学生たちにこの場面でどんな質問を与えるかということメモしておいた。質問は、毎回の授業で最低5つは用意した。学生に質問をする順序は、その日の日にちの数字を使った。

以下に、今回のテーマを実施したことで感じたことをまとめる。

質問メモがあるために、毎回質問はスムーズにできた。

学生が間違った回答をしたとしても簡単にそれで終わらずに、正しい回答が出るまでヒントを与えながら正解を導くように努めた。

後から学生に聞いた話では、今日の日にちを見て、今日は自分が先生に当てられる日だといった変な緊張感があったそうである。

学生は、先生から当てられたときは相当緊張しているようである。特に、高専生は消極的な学生が多くなっているような気がする。このような状況の中で、回数こそはそんなに多くないものの、答える練習を少しずつでも続けることは、学生たちにメリットはあると感じた。

今回は当てられた学生は着席したままの回答であったが、ちゃんと返事をさせたあとに立って答えさせてもよかったかもしれない。

教育研究テーマ実施報告書の例

(出典 平成16年度教育改善に関する研究テーマとその概要集 より抜粋)

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

教育の実態・状況を収集・保管する仕組みが機能している。教員の自己採点、学生による授業評価アンケート等に基づき教育の状況を点検・評価する仕組みが実現されている。継続的なFD活動がなされており、教育改善のための校内研修会への教員参加率95%以上と積極的な活動が行われている。学内LANを活用した「学生による授業評価アンケート」を独自に開発し学生の意見聴取に活用している。同システムの導入により授業内容に関する意見聴取・結果集計が短時間で行なえるため、素早い授業改善が行なえる。アンケート結果を年次比較することで長周期の授業評価システムとしても活用できる。

(改善を要する点)

学生の意見は教員各自の自己点検・評価に反映されるシステムができており、学生の自己点検評価結果や意見を組織的に教育改善に活用反映させ適切に評価する体制整備が必要である。

(3) 基準 9 の自己評価の概要

教育改善を目的として、教育の実態を示す試験問題、解答及び成績評価方法などの資料が保存されている。学生による授業評価アンケートを効率的に実施するために「Webアンケートシステム」を独自に開発し、意見聴取・結果集計が短時間でこなえ、授業評価・改善システムとして有効に活用している。

参与の会、保護者会、卒業生および就職先企業への高知高専の教育に関するアンケートなど、学外関係者からの意見・提案を聞く機会は数多くある。寄せられた意見・提案や学生による授業評価結果を教育改善に活用することによって継続的な教育改善を行っている。

ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動として、教育講演会や教員研修会等を開催し、意欲的に行なっている。各教員の教育に関する研究テーマの設定と、一年後に提出された実践成果報告書の内容から、多くの教員が、教育研究テーマとして、授業内容の改善について取り組み、効果をあげている。FD活動が教育の質の向上、授業内容の改善に十分結び付いていると言える。

学生による授業評価アンケート調査結果の全科目平均値、教員による自己評価の教育に関する項目が、毎年上昇していることから、FD活動が教育の改善に適切に結び付いていると判断している。